

平成27年8月3日
13:30～15:00
会場：上川合同庁舎
2階204号会議室

第4回 第6地区教科用図書採択教育委員会協議会記録

◇出席者 上川管内市町村教育長（旭川市を除く）
◇事務局 富良野市教育委員会

1 議題

- (1) 平成28年度から使用する中学校教科用図書の採択について
- (2) その他

2 協議会の審議と採択の記録（議長は協議会長）

事務局	<p>只今より第4回第6地区教科用図書採択教育委員会協議会を開催いたします。協議会会長より御挨拶を申し上げます。</p>
会 長	<p>委員の皆様には、大変御多忙の中、御参集いただき、ありがとうございます。前回に引き続き、残りの4種目について協議を行います。よろしくお願いします。</p> <p>本日の協議の進め方ですが、できるだけ多くの方から御意見をいただき、発言が分かれた場合は協議を行います。原則は全会一致ですが、全会一致とならなければ、最後は投票で決定するということになります。</p> <p>皆さんの御協力をお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>それではこの後の議事につきましては、会長に進行をお願いします。</p>
議 長	<p>協議の順番ですが、前回と同じく、国語・書写・美術・英語という順で進めます。</p> <p>それでは、最初に国語の協議を始めます。前回出していただいた意見を含めて、各委員から御意見ををお願いします。</p>
委 員	<p>国語について、数社の教科書を検討した結果、光村図書を推薦します。光村図書の特徴についてお話しします。</p> <p>1点目として、全体的な印象としてとても理解しやすいということです。光村図書は内容が難しいということを聞いておりましたが、第1学年の教科書を比較しまして、全体的にはそれほど難しくないと考えます。第1学年の6ページ「この教科書で学習する皆さんへ」において、学習の見通しをもって学習活動に取り組み、次の学習に生かしていくという、教材の構成や学習の流れが示されております。</p> <p>また、8ページから12ページにかけて、1年間でどのような学習を行い、どの教材でどのような力を付けるかという見通しが、「葉」のマークで分かりやすく示されています。</p> <p>さらに、教科書下段の「学習のポイント」では、重要なポイントが一目で理解できるようになっています。</p> <p>2点目として、「話す・聞く」「書く」「読む」の中で、特に、読むことについては、生徒が主体的に読み進められるよう、分かりやすく資料を使うなど工夫されています。</p> <p>また、第1学年の33ページなど、読み物教材には「学習ページ」というマークがついており、327ページの巻末資料「文学的な文章を読むために」、「説明的な文章を読むために」を参考にしながら、生徒が自分でどう読み進めていけばよいのかが分かるようになっています。</p> <p>3点目に、学習の「振り返り」において、学んだことを定着させていく工夫が見られます。第1学年の115ページでは、登場人物の心情をどのような点に着目して読み取ったか。また、登場人物の行動から自分のものの見方や感じ方はどのように変わったかなど、読み物教材の学習ページに学習を振り返る箇所があり、生徒は、何をどの</p>

	<p>ように学んだのか振り返ることができるようになっています。これは、学習の振り返りが学びの定着につながるという重要なポイントです。</p> <p>最後に、漢字の定着についてです。第1学年の218ページでは、読み物教材の後ろに「漢字を確認しよう」という欄があり、教材で学んだ漢字を別の例で表したり、小学校で習った漢字を復習したりする場合があります。一覧表のみで示すより、具体的に確認する場があった方が定着できると考えます。</p> <p>以上、光村図書の特徴ですが、学力向上につながる工夫があると考えます。</p> <p>もう1点、読書感想文の書き方が281ページに掲載されています。読書感想文を書くことで、本への理解や自分の考えを一層深めることができます。また、書く手順や書き方の工夫が示されているとともに、読書記録の作成の重要性についても掲載されています。</p> <p>これに対して東京書籍は、目標に対して振り返りがありません。</p>
議 長	<p>その他ございますか。</p>
委 員	<p>国語について、光村図書と東京書籍の2者に絞られておりますが、今回の中学校の国語には戯曲が掲載されていません。学校図書においては「花いちもんめ」という戯曲が掲載されています。しかしそれは、台詞ではなくて一人芝居の台本みたいなもので、戯曲とは言えません。</p> <p>また、今回、比較として取り上げたのは、光村図書と東京書籍の第2学年「平家物語」についてです。これまで使われていた教科書においても、平家物語の那須与一のところは、日本語としてリズムがよいということで、音読の題材として取り扱われていました。光村図書は、古典の中で音読を楽しもうということで、明確に示されています。</p> <p>また、読書コラムにおいても、例えば、1年生の93ページに宮崎駿のコラムが載っており、生徒の読書に対する興味関心を高める工夫が見られることから、光村図書がよいと考えます。</p>
議 長	<p>その他、御意見ありますか。</p>
委 員	<p>道の採択参考資料を見ますと、多くの点で光村図書がよいというように判断したのですが、東京書籍においても、例えば第1学年では、情景や心情を捉えリズムを感じながら朗読することをねらいとして詩が載せられているなど、余韻を楽しむ工夫が見られました。</p> <p>しかし、小学校から中学校への接続や第1学年から第2学年までのまとめや振り返りを繰り返し取り上げ、学習の見通しや教材を学ぶ力を付けさせていく点では、光村図書の方が充実していました。</p> <p>また、「話す・聞く」領域の学習において、光村図書では、学習の形態がイメージで</p>

	<p>きるポスターセッションやプレゼンテーション、パネルディスカッションなど体験的な言語活動を具体的に示しており、優れていると考えます。</p> <p>さらに、第3学年では、中学校の学習の出口として3年間の学習の振り返りを丁寧に取り上げているという点では、光村図書がよいと考えます。</p> <p>補足ですが、挿絵に「光る地平線」があるのですが、その中に北海道旭川在住のあべ弘士さんの挿絵が入っており、総合的に判断して光村図書がよいと考えます。</p>
議 長	<p>その他、御意見はありませんか。</p>
委 員	<p>中1の教科書を比較したところ、目次の表記については、光村図書が分かりやすく書いてありました。また、学習の見通しについては、両者とも学習の進め方が書かれてありよいと考えます。</p> <p>前回の協議会で、光村図書の教材は難しいのではないかと意見を述べましたが、光村図書の第1学年の最初に出てくる物語「花曇りの向こう」は、1年生になって間もない主人公の心の移り変わりを考えていくストーリーであり、自分たちと同じ状況にある子どもたちの心情を考えるという点では、理解しやすい物語です。</p> <p>逆に、東京書籍の「飛べかもめ」という物語は、かもめと自分を対比させながら考えていくストーリーであり、光村図書が理解しやすい内容であると考えます。</p> <p>国語というのは、題材が重要ですので、発行者が変わった場合、先生方がしっかりと教材研究をして計画を立てなければ、その発行者の思いが伝わらないということが懸念されますが、読解力の底上げを考えれば、光村図書の方が望ましいと考えます。</p>
議 長	<p>他にございますか。</p>
委 員	<p>教科書の中身については光村図書も東京書籍も、今、指摘のあったとおりです。内容面で優れているのは光村図書であると考えます。</p> <p>ただし、中学校は3年間で卒業ですが、小学校は6年ありますので、3年で発行者が変わるとするのは、6年間で何度も発行者が変わることになります。小学校では、教育出版から東京書籍に、そして光村図書にということで3年ごとに発行者が変わっているところが、非常に気になっています。今後そういう点についてもしっかりと配慮していかなければなりません。</p>
委 員	<p>東京書籍は平成18年度から導入しています。その後、中学校の学習指導要領の改訂に合わせて23年度に再度、東京書籍を採用しておりますので、ここ10年間は東京書籍を採用していることになります。</p> <p>確かに、3年や4年での変更となると様々な混乱が起きることが考えられますが、年数的には、10年間は東京書籍を使ってきたということでしたので、これについては、確認していただければと思います。</p>

議 長	<p>大方の意見が出ましたが、よろしいですか。</p> <p>他にないようですので、今の御意見を総合しますと、今回、国語については光村図書に決定をするということが全体の御意見かと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
委 員	はい。
議 長	<p>それでは、国語については光村図書に決定します。</p> <p>次に書写の協議を行います。書写については、国語との関連があるということで、前回は特段の御意見がなく終了しておりますので、書写についての御意見をいただきます。</p>
委 員	<p>前回も述べましたが、基本的には書写は国語と関連付けのある内容ですので、国語と書写の発行者を変えとなると、先生や生徒が混乱を起こすのではないのでしょうか。そのようなことから考えると、今回、国語を光村図書に変えるのであれば、書写についても光村図書にした方がよいと考えます。</p>
議 長	<p>内容というよりは、基本的に国語と関連が深いという御意見でしたが、内容等については、よろしいですか。</p>
委 員	<p>光村図書の書写については、1点目として、短時間で書く力が伸びるという特徴をもっています。分かりやすく、学びやすい構成になっています。</p> <p>2点目としては、国語の教科書とつながる教材であるということであります。</p> <p>3点目については、使いやすく整理された豊富な資料があり、書写辞典など日常の学習においても活用しやすくなっています。</p>
議 長	<p>他にございませんか。</p> <p>意見がないようですので、総合的に判断すると、光村図書ということでよろしいでしょうか。</p>
委 員	はい。
議 長	<p>それでは、書写については光村図書に決定します。</p> <p>次に、美術の協議を行います。</p> <p>美術について御意見をいただきます。</p>
委 員	<p>全体的には、前回の協議で言ったとおりなのですが、日本文教出版は、専門性や研究性はありますが、題材的には中学生にはレベルが高すぎると考えます。光村図書の</p>

	<p>方が美術を教える、美術の世界を広げるという点においては、生徒にとっても先生方にとっても使いやすいつくりになっています。</p> <p>学習指導要領との関連については、表現や鑑賞の幅広い活動という面で、光村図書の方がバランスよく構成されています。</p> <p>光村図書では、美術の創造活動に留まらず、社会活動や道徳の分野に及ぶ創造活動を取り入れています。例えば第2・3学年の26ページで、男の子と女の子が自画像を描き、自分でコメントをする箇所があるのですが、美術の教科書ながら、社会科か道徳の教科書ではないかという扱いをしています。また、光村図書の特徴として、美術だけではなく音楽や言語活動についても取り上げられているほか、自己肯定感を高めることにつながる「将来の自分に向かって」という欄も設定されています。</p> <p>また、感性を豊かにするという側面から、1年生の30ページでは「文様の飾りの小宇宙」という箇所があり、国や地域での美意識や価値観の多様性を文様を切り口にして表現しているなど、優れていると考えます。</p> <p>さらに、同じく1年生の46ページ以降には、学習の基本を支える資料として、巻末の資料が日本文教出版では10ページ程度、光村図書では16ページほどあります。</p> <p>また、第2・3学年の後半に文化史があるのですが、光村図書の方が見やすくなっており、様々な分野で子どもたちが創造や感性を磨く場があり、題材も広がりがあり豊富です。</p> <p>また、光村図書の方が色覚特性・特別支援へ配慮したページもあることから、総合的に判断すると、光村図書の方がよりよい教科書であると考えます。</p>
議 長	その他、御意見はありますか。
委 員	<p>今の意見と重なる部分がありますが、第2・3学年でアンジェラ・アキの「手紙」という歌の詞が書かれています。また、第1～3学年の巻頭には、絵に添えて谷川俊太郎の詩が掲げられており、第1学年の22ページの「風神雷神」においては、アーサー・ビナードの詩があります。光村図書は、美術と言葉をしっかりと関連付けていることが特徴的であり、光村図書がよいと考えます。</p>
議 長	<p>その他ございますか。</p> <p>他に御意見がなければ、光村図書がふさわしいということでまとめさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
委 員	<p>教科書を見ながら説明したいので、光村図書の表紙を見てください。光村図書は、第1学年は熊、第2・3学年は岩が空の上に浮かんでおり、美術的感性の素晴らしさが表紙に表れています。これが1点目です。</p> <p>次に、日本文教出版を見ますと、表紙の脇に教科書の理念や3年間の方向性が明確に示されています。例えば、「出会いと広がり」というようにテーマが示されています。</p>

	<p>第2・3学年の上では「学びの深まり」、同じく下では「美の探求」です。芸術教科としては、理念が非常に大事ですので、光村図書についても見ましたが、第1学も、第2・3学年についても最後まで美しいで終わっています。</p> <p>日本文教出版を見てみると、巻頭でテーマと関わる内容を紹介しています。第1学年では、「出会いとの広がり」ということで出会って広げようという意図がありますし、教科書のもつ精神や理念を明確に打ち出しています。第2・3学年の上も下も同じで、そのような捉え方をしています。</p> <p>また、中身を見ると、美術の学習とはどういうものかということを中心に大きく4つの視点から整理しています。</p> <p>1つ目は、自分を見つめるという視点で、第2・3学年下の10ページの所で自分を見つめるという視点から教材が構成されています。</p> <p>2つ目は、1年生の23ページで、他者を見つめる、自分を見つめるから他者を見つめるという視点で題材が構成されています。</p> <p>3つ目は、第2・3学年の上の38ページでは、社会や生活を見つめるというテーマで題材が構成されています。</p> <p>4つ目は、第2・3学年下の16ページにおいて、自然や環境を見つめるという視点から題材が構成されており、美術の学習を大きく4つの視点から整理しています。そのように意図をもった教科書づくりをしているということが大変に特徴的であり、生徒の成長を意識した視点でつくられています。</p> <p>他の教科では、学年を追って学習内容が決められるのですが、美術の場合は、総合的に組み立てていくことが大事であり、そのようなつくりを構成していることが、日本文教出版の大きな特徴です。</p> <p>こうしたことは、大事なことで、教師にとってもこのことをしっかりと捉えて教えることができます。そのように指導者側の視点に立って取り組むことができるような教科書の構成になっているという所が、他の出版者にはない大きな特徴です。</p> <p>それと前回、原寸大の話がありました。</p>
委 員	<p>私の間違いで、原寸大の題材の数の話です。日本文教出版が2作品で、光村図書が4作品ありました。</p>
委 員	<p>日本文教出版は、第2・3学年上の26ページに原寸大の葛飾北斎の作品があります。これが本当の原寸大で、左の方の原寸大で和紙を使っています。美術というのは、感覚的に視覚で訴えるものも大事なのですが、触覚で感じることも大事なことです。そういう面では、視覚と触覚を大事にしており、これに接することは大変大事なものになると考えます。</p> <p>これは、本当の原寸大で、触感も大事にさせるという教材が盛り込まれているというのが特徴的で素晴らしいです。</p> <p>また、もう1つ大きな特徴として、それぞれ仏像を取り上げています。例えば、光</p>

	<p>村図書の第1学年の22ページをご覧ください。風神雷神像を掲載しており、その目標部分を見てください。「これらの作品を見つめてどんな印象を受けるか、みんなで話し合ってみよう」という表記の仕方をしています。</p> <p>ところが、日本文教出版は、第2・3学年下の24～26ページに出ておりますが、「仏像にも様々な種類があり、時代や作者によって特徴が異なることに興味をもとう」、「それぞれの仏像から感じ取ったよさや美しさについて話し合い、理解を深めよう」とあります。光村図書と比較すると、ねらいが違うのです。光村図書も日本文教出版も、それぞれ仏像から感じ取ったよさについて話し合おうということはあるのですが、日本文教出版の場合、時代や作者によって特徴の違いを鑑賞させようという観点があります。鑑賞のさせ方も視点が違い、時代背景を見て鑑賞させたり、作者によってどういう表情をするのかという観点から鑑賞させたりしています。具体的に細かいところを見ていくと、そのような観点が違います。</p> <p>他の委員も発言していましたが、学習指導要領の目標や内容との関連についてはほとんど変わりません。ただ、作品の数は完全に光村図書の方が多いです。目標や内容との関連、道徳との関連、伝統文化の尊重、国際理解という観点は、ほとんど変わりません。</p>
議 長	<p>今、光村図書と日本文教出版とで意見が分かれている状況ですが、他に御意見はありませんか。</p>
委 員	<p>今回、光村図書では学習指導要領の内容に添った構造に工夫されている部分があります。それは、教科書が日本文教出版は3冊なのですが、光村は2冊ということです。</p> <p>学習指導要領では、第1学年と第2・3学年とに分けたつくりになっており、それに教科書を合わせているというのが特徴です。</p> <p>そのメリットとしては、第2・3学年を1冊にまとめたことで、2年間を通して題材の選択の幅が広がったということが大きな改正点です。</p>
委 員	<p>どちらも素晴らしい教科書です。</p> <p>日本文教出版の第1学年については、特に、心の中のものを表現していこうというようなことが感じられます。そして、言葉とのつながりという第2・3学年上の言葉との響き合いというのも出てきますし、最終的には言語化を図りながらつなげていこうという意図がもたれています。</p> <p>光村図書については、デザインを中心として美術との関わり・社会との関わりに触れさせて、楽しさを味あわせようということが感じられます。そのような中で、光村図書については、デザインの学習の中で、メッセージボックスや水引きのデザインをあえて考えさえてみたり、デザインを重視して社会とのつながりを意識するか、美術への入り口として心のつながりを1年生の時に教えようとしたりしています。</p> <p>中学校の出口としては、光村図書がふさわしいと考えますが、日本文教出版の第1</p>

<p>委員</p>	<p>学年の心の表現については、標準的な生徒を対象としたときには、よいのではと考えます。</p> <p>例えば、教科書の大きさでは、日本文教出版はB判で、光村はA4判。逆にページ数が多いのは光村図書で、そういうメリットやデメリットがあると判断がつかないところがあります。作品が多いのは光村図書で、道の採択参考資料を見ながら調べましたが、発想とか構想とか促すヒントだとか見通しをもって活動をできるような工夫はどうかというと、日本文教出版が多いようです。</p> <p>また、学習のねらいや振り返り、指導事項の提示・定着についても日本文教出版が若干多いです。生徒に与える鑑賞教材の視点というのが、光村図書は不明確であり、教科書会社の理念があって、見たものを感じ取らせるつくりになっています。</p> <p>ところが、日本文教出版は、視点を与えておいて、その視点で生徒がどのように解釈するかというつくりになっています。</p>
<p>委員</p>	<p>光村図書の方が全体を通して意欲を促す点において配慮されています。例えば、第2・3学年の75ページ「君の椅子」プロジェクトについては、地域に根ざした活動として行くと、興味関心は高まりますし、自分の気持ちを伝える表現としては有効です。</p>
<p>委員</p>	<p>技術・工芸の分野においては、つくる喜びや人に伝える喜びが大変重要な部分です。</p> <p>光村図書は、第2・3学年において金属や石で作品をつくるのですが、教科書で作品のつくり方を示しているのは光村図書の特徴です。他者の教科書を見ましたが、手順は示されていません。私は、光村図書のように手順を示している教科書の方が次のステップにつながりますので、光村図書を推薦します。</p>
<p>委員</p>	<p>小学校、高等学校との連携の視点から見ますと、1年生の巻頭においては小学校から中学校へ、図工から美術に変わるということについて、日本文教出版が連携を意識したつくりになっています。</p> <p>もう1点、「ゲルニカ」については両者扱っているのですが、迫力があるのは光村図書の「ゲルニカ」です。詩が書いてあります。</p> <p>日本文教出版では、作品を見るときに鑑賞の仕方や歴史的背景が書かれており、時代背景を的確に捉えながら「ゲルニカ」を鑑賞しようという意図が感じられます。</p> <p>一方、光村図書では、各自が感じたことを話し合うつくりになっています。迫力については、光村図書が素晴らしいのですが、総合的に判断すると、鑑賞教材では日本文教出版が少し優れていると考えます。</p>
<p>議長</p>	<p>今、出された意見では、光村図書がよいという意見が多かったですが、日本文教出版がよいという意見も含めて、それぞれの立場から更に付け加える意見等があればお願いします。</p>

委 員	美術科の現状を考えますと、本町の大きな中学校でさえ正規の美術科の教師を配置できないような状況です。このような状況を考えた時、美術専門の教師でなくても、内容を少しでも分かりやすく伝えることができるのは光村図書ではないかと感じます。感覚的なことで申し訳ないのですが、生徒に教えやすい、伝わりやすいという部分では、光村図書がよいと考えます。
議 長	<p>他にありませんか。総合的には、光村図書という意見が多いように感じられますが、全会一致という観点からいけば、皆さんに御理解いただくことになりますし、それぞれに判断をしていただくということであれば、投票という形になります。全会一致でもっていく方に反対の方があれば投票にしますがいかがですか。</p> <p>反対がないようですので、全会一致ということで美術については、光村図書にすることで決定します。よろしいでしょうか。</p>
委 員	はい。
議 長	<p>それでは、美術科については、光村図書に決定します。</p> <p>最後に、英語について協議を行います。御意見をお願いします。</p>
委 員	<p>前回の協議で、3者を比較しながら、総合的に東京書籍がよいのではないかという意見を述べさせていただきました。今回は、教育出版と東京書籍に絞られましたので、両者の特徴的な点を述べます。</p> <p>現行は、教育出版であり、本文が多く掲載されているという特徴があります。憂慮すべき点は、本文に気を取られすぎて、基礎・基本となる文法の定着が疎かになるのではないかということです。生徒にとっては学年が上がるに連れて難しくなる、理解しづらいという面があります。</p> <p>もう1点、教育出版の教科書には別冊が付いておりますが、ここまでする必要はないのではないかと考えます。むしろ、基礎・基本や文法、語いなどの定着を図るために、分かりやすい構成が必要です。</p> <p>東京書籍については、構成が比較的シンプルとなっています。</p> <p>まず、第1学年の教科書を見ますと、「スターティングアウト」、「ダイアログ、リードアンドシンク」、そして「アクティビティ」という形で、分かりやすく整理されています。学習後に生徒が振り返って練習する際や教える側に立って考えてみたのですが、基本文型に対して様々な語い等を入れ替えたりしやすいです。その辺りが東京書籍の特徴です。</p> <p>初歩的な英語を使ってしっかり基礎を固めていくという意味では、東京書籍が望ましいと考えます。</p>

委 員	<p>文法のまとめについてですが、例えば、第1学年でつまずきやすい人称代名詞について、東京書籍の第1学年の92ページ、教育出版の59ページをご覧いただきたいのですが、それぞれとても分かりやすくまとめられています。しかし、人称の変化については、教育出版が少し分かりづらいです。</p> <p>また、be動詞については、例えば、自己紹介をする際、昔は名前を言った後に姓を言いましたが、今はどちらでもよいことになっています。東京書籍では、そのことに触れて注意書きされています。</p> <p>次に、辞書の使い方についてです。このことは、現在の生徒はとても苦手になっています。辞書の使い方については、東京書籍は37ページと52ページで、第1学年で2度扱っていますが、教育出版は、別冊の付録で一度扱っているだけです。</p> <p>次に、東京書籍は、アルファベットの字体が大きいので見やすく感じます。</p> <p>さらに、挿絵を比べてみますと、東京書籍はすっきりとしており、教育出版は、多く取り入れています。少しくどいところがあります。</p> <p>次に、ThisやThatについて注目しました。Thisの複数形はTheseであり、Thatの複数形はThoseですが、東京書籍は、Theseの次にThoseが続きますが、教育出版は、Thoseは第1学年では出てきません。</p> <p>次に、第2学年の動名詞ですが、東京書籍は84ページと86ページで順序立てて分かりやすく示されています。教育出版は、少し分かりにくいです。</p> <p>次に、第3学年の関係代名詞の扱いについてですが、教育出版は文法の中で扱っていますが、東京書籍は文章の中で示されており、こちらの方が扱いやすいです。</p>
委 員	<p>英語の教育は小学校から始まってきておりますので、その接続が図られたものが一番使いやすいのではないかとという観点で比べてみました。その点、東京書籍の方が資料も含めて小学校の外国語活動からの円滑な接続が図られています。</p> <p>総合的にはあまり違いはないのですが、東京書籍の方が小中の接続の部分においてよくできています。</p> <p>学校現場においても、東京書籍にした場合、資料を必要以上に揃える必要がないのではないかと考えますので、東京書籍の方がふさわしいと考えます。</p>
委 員	<p>私は、学習の流れについて気が付いた点がありますので、お話ししたいと思います。</p> <p>東京書籍の2ページ目を見てください。英語を通じて新しい世界に出会おうというところです。教育出版は、2ページ目に英語の学習の仕方が載っています。</p> <p>東京書籍は、単元がユニットとなっており、ユニットとプレゼンテーションを交互に配置しています。プレゼンテーションの右側は、例えば、自己紹介の5番に「デイリーシーン」で体調を尋ねると示されています。</p> <p>ユニットが終わったらデイリーシーンにつながり、プレゼンテーションに行くという流れになっています。ただ、中には6ユニットの電話の会話という所など、ユニットとデイリーシーンのつながりがよく分からないところもあります。</p>

<p>委員</p>	<p>教育出版は、ユニットではなくレッスンとなっています。レッスンの後にプロジェクトが配置されています。東京書籍にあったデイリーシーンは教育出版では「タスク」として示されています。</p> <p>例えば、教育出版の74ページからは、When、Whereを扱い、次にwhat time、How manyを扱っています。その後、これまで習ってきたことを総合的にまとめて活用するのがタスクというつくりになっています。</p> <p>教育出版は活用しようというのがあるのですが、東京書籍は、デイリーシーンについて、前の部分との関連性が見受けられません。第2学年と第3学年の教科書を見たら、東京書籍にアクティビティというのが入っており、これは、教育出版というタスクと同じような形で入ってきます。</p> <p>コミュニケーション能力については、文脈だけの話ではなく、どのように使うかということがとても重要になります。ですから、ストーリー性ではなくて、一つの単元の一連の流れの中でどう使うかということが重要ですので、東京書籍は、プレゼンテーション1の中で盛り込まれており、様々な発展性という意味で、デイリーシーンが加わっています。</p> <p>基本的には疑問文で聞き答えるような文法の定着が一番大切なことであって、その視点を明確に打ち出さなければなりません。</p> <p>教育出版は非常に文章は高度ですので、学習に付いていける生徒はよいのですが、そうではない状況の生徒は厳しいかと考えます。</p>
<p>委員</p>	<p>私も、タスクがコミュニケーション能力を高めるために、ホップ・ステップ・ジャンプでやってきた学習の小さい総括として大切だと考えます。大きな総括がプロジェクトやプレゼンテーションになります。</p> <p>先ほど、教育出版の教科書が、高度ではないかという話がありましたが、プロジェクトとプレゼンテーションにおいて、新出単語を見ると、東京書籍が多くなっています。単語が多いと生徒の定着が悪いとよく言われますが、どうなのでしょう。</p>
<p>委員</p>	<p>総合的に言えば、単語だけではなく、慣用表現や熟語の数を比較していくと、必ずしも東京書籍は多くはありません。</p>
<p>委員</p>	<p>教科書の構成の仕方は、東京書籍が分かりやすく見開きで示されており、バランスが取れています。また、本文の後の基本練習があるところが東京書籍のよい所です。</p>
<p>議長</p>	<p>その他ございますか。ないようですので、総合的な御意見としては、東京書籍がよいという御意見ですが、まとめさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>はい。</p>

議 長	<p>それでは、英語については東京書籍に決定します。</p> <p>最終的に、本日決定した教科書について確認します。</p> <p>国語は、光村図書です。</p> <p>書写は、光村図書です。</p> <p>美術は、光村図書です。</p> <p>英語は、東京書籍です。</p> <p>以上で、全ての教科書の協議を終わります。</p>
-----	--